

速報第3691号 R5.8.2発行 総務課 抜	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	5年 文教委員会 8月1日	質 問 者	広田 まゆみ 委員 民主・道民連合 (札幌市白石区)
質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課		
<p>一 高校のあり方などについて</p> <p>第2回定例議会で提案された教育行政執行方針によりますと、高校教育に関し、「産業界と高校が一体となった次世代の職業人の育成や、インターンシップの推進によるキャリア教育の充実、海外留学や道内居住留学生との交流を通して、多様な文化や価値観に触れる機会の創出を図るほか、学校の活性化や特色ある教育活動支援などのためのクラウドファンディング事業にも取り組みます」という方向性が教育長から示されておりました。</p> <p>また、議会の一般質問においても、高校とまちづくりの関係性について議論があり、道教委としては、「高校がなくなることは、地域の活力維持やまちづくりに少なからず影響を与える」という認識をまず示した上で、先程も少し御議論ありましたけれども、「コミュニティ・スクールの導入や、地学協働の取組の推進」など、地域に開かれ、かつ、地域にとって魅力ある高校づくりが重要であると、教育長としても示されたと承知をしています。</p> <p>一方で、現在示されている高校配置計画案は、基本的には、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本とし、中卒者数の状況を踏まえ、学校学科の配置や規模の適正化を図るため、令和6年から8年度の計画を策定するとともに、令和9年から12年度までの見通しを示すという、いわゆる域内の中卒者数の状況を踏まえるという、従来どおりの方針を超えられていないわけです。</p> <p>私としてはこの書きぶりから抜本的に変えていくべきと考えるところでありますけれども、本日はまず、高校のあり方に関し、何点か道教委の見解を伺いまして、今後の議論の土台にしていきたいというふうに思います。</p> <p>(一) 道立高校におけるコミュニティ・スクールの状況等について</p> <p>道立高校におけるコミュニティ・スクールの設置、コミュニティ・スクールの状況などについて伺います。</p> <p>設置及び推進状況についてどうなっているのか、また、併せて地学協働の取組状況についても伺います。</p> <p>(二) 成果と課題や今後の取組について</p> <p>基本的には、総合教育大綱が作られた最初のときに、知事部局と道教委が力を合わせてやっていくという大きな柱としてコミュニティ・スクールの導入というのが掲げられてきたわけですが、現状としては、なかなか進んでいないというところがあるのではないかとこのように思います。</p> <p>今、コミュニティ・スクールと地学協働についてお話をいただきましたけれども、それぞれの成果と課題についてどのように認識し、今後、どのように取り組んでいく考えか伺います。</p>	<p>(社会教育課長)</p> <p>道立高校におけるコミュニティ・スクールの状況等についてでございますが、道教委では、地域住民や保護者の方々と教育理念や学校課題を共有するとともに、学校運営への支援や教育活動への参画・協力を得ることが重要であるとの考えのもと、道立高校へのコミュニティ・スクールの導入を進めてきており、現在、189校中43校で導入され、さらに次年度に向け都市部である石狩管内での導入について調整しているところでございます。</p> <p>また、地学協働について、道教委では、高校生と大人と一緒に地域課題に向き合い、その解決を目指す探究型の学習体験を通じて、地域の未来を担う人材の育成や地域コミュニティの活性化を目的とする「北海道CLASSプロジェクト」を令和3年度から実施し、現在、道内の4つの圏域ごとに選定した研究指定校において、「町独自の持続可能な地域づくりの担い手育成」や「地域に根ざした高校づくり」など、地域や学校の実情に応じたテーマを設定し、生徒が主体となって取り組んでいるところでございます。</p> <p>(生涯学習推進局長)</p> <p>成果と課題や今後の取組についてでございますが、道立高校にコミュニティ・スクールを導入した地域からは、「地域と学校が育成したい生徒像を共有できるようになった」「地域と連携した地元の行事への参加などの取組を組織的に行えるようになった」などの声が上がっており、一定の成果があったと認識しております。</p> <p>一方で、都市部の高校では、生徒の通学区域が広範であり、複数の地域が関係すること、小規模校では、協働して学校運営に参画できる人材の確保が難しいといった課題があることから、地域住民や学校との連絡調整を行う地域コーディネーターの活用や、学校における地域連携を担当する教職員の明確化など、学校や地域の実情に応じた推進体制の構築に取り組む必要があると考えております。</p> <p>また、地学協働につきましては、取組の成果として、</p>	<p>社会教育課 高校教育課</p> <p>社会教育課 高校教育課</p>		

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(指摘)</p> <p>そもそもコミュニティ・スクールの導入や地学協働の取組の推進というのは、地域に開かれ、かつ、地域にとって魅力ある高校づくりのために行うということですので、基本的に高校の現場の中からというか、そこに負担が集中するようであれば、開かれた学校づくりというのは、なかなか内部からやるということは、もちろんそれは重要なのですけれど、難しいのではないかというふうに思います。</p> <p>先程も、地学協働のところでも理事者の方も首長部局との連携強化が課題であると、御指摘のところでも首長部局との連携強化ということが出ておりますので、私としては例えば今、道庁で、応援団第2章でしたか、そういうことが進んでいるなかで、中央の様々な財源を活用して、外部の人材をしっかりと学校と地域をつなぐために入れていくということ、を、しっかりと柱として据えてやっていただきたいというふうに指摘をさせていただきたいと思っておりますし、私自身も関係部と議論をさせていただきたいというふうに思います。</p> <p>(三) 地学協働の取組と普通科新学科の関連について</p> <p>地学協働の取組と普通科新学科の関連について伺いたいと思うんですけども。</p> <p>最近、新学科増設など学校配置計画に関しての議論が行われておりますけれども、こうした地道なコミュニティ・スクールというのは、学校とはどうあるべきかというのを地域の人たち、学校の中だけじゃなくて、地域の人たちと一緒にほんとにこの地域の学校とは何のためにあって、どうあるべきかというのをしっかりと議論するということだと思いますが、そうしたコミュニティ・スクールの議論や先程から議論のあった地学協働などの日常的な取組の継続の中からその高校の普通科新学科の設置というのがあるべきと私は思うわけですが、この地学協働の取組が普通科新学科の設置とどのように関連しているのかについて、伺いたいと思っております。</p> <p>(意見)</p> <p>要は関連していないということなんですよ。私のその印象としては、高校配置計画の議論と高校の在り方ということで、皆さんいろいろ真摯に議論をされているということが、連動していないということがすごく印象に残っています。</p> <p>これ改めてちょっとまた質問させていただきたいと思っております。</p> <p>(四) 高校の特色化と入学者確保について</p> <p>次に、道立高校なき後の地域の状況などについてという形で伺っていきたく思うんですが、この30年間で北海道から約3割の高校が減少したとのことですね。</p> <p>例えば、十勝の浦幌のように高校廃止を契機として、浦幌の小中学生の子どもたちに浦幌の良さを知ってもらって、そして戻ってきてもらうという地域全体の取組として、まさに子どもも参画でまちづくりにも参画をして、自己効力感を高めるということが、今、10年以上を経て、若い人たちのUターン、Iターンにつながっていると承知をしています。</p> <p>また、食育や観光などに特化して、道外からも学</p>	<p>研究指定校から、「地域社会との関わりを持つことで、地域のために貢献したいという意識の高まりが見られた。」「主体的に探究活動を進めることにより、学びが深まり、生徒の学習意欲が向上した。」などの声が聞かれる一方、地域コーディネーターや担当教諭に負担が集中しない体制づくり、総合的な探究の時間に要する授業時数の確保などの課題が見られることから、事業の最終年である今年度は、「全道地学協働活動研究大会」を開催し、学校関係者と成果と課題を共有するなどして、校内体制づくりを推進するとともに、研究指定校の3か年の取組をはじめ、他の地域で取り組んでいる特色ある事例を取りまとめた成果報告書を普及・啓発してまいります。</p> <p>(高校教育課長)</p> <p>普通科新学科と地学協働についてであります。国では、生徒や地域の実情に応じた特色・魅力ある教育を推進する観点から、新たに、「学際領域に関する学科」、「地域社会に関する学科」、「その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科」を、令和4年度から設置可能とする制度改正を行ったところであります。</p> <p>このうち「地域社会に関する学科」では、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組むとされ、こうした内容は、地学協働の趣旨に通ずるものと認識をしております。</p> <p>(高校教育課長)</p> <p>高校の特色化についてですが、道内の市町村立高校の中には、地元自治体の積極的な支援のもと、地域資源を最大限に活用し、工芸科や食物調理科などの学科を設置して、道内外から生徒を募集し、魅力化・特色化を図っている学校があります。</p> <p>道教委では、中学校における教育の基礎の上に、生徒の心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする中で、可能な限り生徒の進路選択幅を確保し、多様化する学習ニーズに対応できるよう、通学区域や一定の圏域ごとのバランスなども考慮しながら、活力と魅力のある高校づくりを推進し、学校・学科の特色を生かした教育活動の充</p>	<p>高校教育課</p> <p>高校教育課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>生を募集し、努力をし、今、活性化している市町村立高校もあります。</p> <p>なぜ、これらのことが道立高校では行えなかったのか、率直に伺いたいと思いますが、見解をお願いします。</p> <p>(意見)</p> <p>ご答弁としては、要はその道教委では、「一般的な高度の普通教育を受け、専門教育を施すことを目的とする中で」というふうにご答弁だったというふうに思いますが、それは昔、ある程度、大学を卒業すれば、ある程度なんとか就職ができたという時代のことであると思いますし、先程冒頭にご照会しました教育行政執行方針で示された教育長のご答弁からするとですね、その考え方ではなかなか道立学校の在り方としては、難しいのではないかなと思います。</p> <p>(五) 高校教育の状況などについて</p> <p>道立高校廃校後、その後の地域の高校教育の状況が市町村移管なども含めてどのように変化したのか伺うとともに、それぞれの地域状況において違うため、一概には言えないと考えますが、そうした変化を、道教委として先に照会した教育行政執行方針と合致をしているのか見解を伺います。</p> <p>(意見)</p> <p>方向性を同じくするという答弁でございましたけれども、また改めて議論させていただきたいと思えます。</p> <p>(六) 廃校舎の活用状況について</p> <p>活用されていないままの廃校舎などがないのか、廃校舎の活用状況について伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>活用検討中の廃校舎が7件ということは、廃校のままの建物が7棟あることと思います。地域にとっては空き家は放置をしておく過疎の象徴となるが活用すると新しい地域振興とカリノベーションとか色々な活性化にも繋がると思いますが、個別に地域事情もそれぞれあると思いますので、道立施設として廃校したものをそのまま放置しておくことは財源的な問題など課題があるかと思いますが、これは早急に改善すべきだと指摘をさせていただきます。</p> <p>(七) 市町村立高校の現状把握などについて</p> <p>次に、市町村立高校の現状把握などについて見解を伺っていきたくと思いますが、例えば、北海道おといねっぶ美術工芸高校は、もともと村立として設置されたこと承知しております。</p>	<p>実を込めているところでございます。</p> <p>(道立学校配置・制度担当課長)</p> <p>高校配置の状況などについてであります。少子化が急速に進展する本道において、高校の小規模化が進む中、教育水準を維持向上させ、教育環境の充実を図るため、中学校卒業生数の状況や地元からの進学率等を総合的に勘案し、道立高校の再編整備等を行ってきたところであり、この30年間で55校減少しております。</p> <p>この間、地域からは、「高校がなくなるということは、切実な問題である」、「地域の中で子どもを育てる視点から、地元で高校があるのが望ましい」といった御意見を多数いただいております。道教委では、地域創生の観点から、高校が地域で果たしている役割を十分踏まえた上で再編整備を進めるとともに、高校を核とした地域振興や、特色ある高校づくりを進めるため、道立高校から市町村立高校への移管の要望がある場合は、当該市町村と協議を進めるなど地域の教育環境の維持に努めてきております。</p> <p>こうした取組は、地域と歩む持続可能な教育の実現に向け、「環境の変化に対応し、教育機能の維持向上を図る高校づくりを進める」とした執行方針の考え方と方向性を同じくするものと考えております。</p> <p>(施設課長)</p> <p>廃校舎の活用状況についてであります。道教委では、道立学校が廃校となった際には、道や市町村における利活用を検討し、その見込みがない場合、学校法人や企業など民間事業者の方に広く購入希望を募っており、現在、活用検討中の廃校舎は7件ございます。</p> <p>また、道教委では、これまで、函館稜北高校校舎を函館高等支援学校に、滝上高校校舎を滝上町立滝上中学校に、旭川東栄高校校舎を学校法人旭川龍谷学園旭川龍谷高校に転用するなど、閉校した高校を各学校種へと活用してきた実績があり、今後とも、道立での活用はもとより、地元市町村等の御意向もお伺いしつつ、その対応に努めてまいります。</p> <p>(高校教育課長)</p> <p>市町村立高校の現状等についてであります。道内の市町村立高校のうち、例えば、おといねっぶ美術工芸高校では、道内唯一の工芸科において、木材を使った家具の制作を行い、また、三笠高校では、教育活動</p>	<p>高校教育課</p> <p>施 設 課</p> <p>高校教育課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>もちろん、高校自体も厳しい時代もあったと聞きますが、今は季節の学校とも呼ばれたり、現在は、おといねっぶ美術工芸高校には道外からも多数入学し、卒業後は旭川近郊の木工産業の担い手の人材としても大変活躍をしています。</p> <p>道内市町村立高校の特徴や、現況について道とどのように把握しているのか伺います。</p> <p>(八) 道外からの入学者の受入れの経緯と今後について</p> <p>道立高校のこれからの道外からの入学者の受入れや今後について伺います。頑張っている市町村立高校の多くが、市町村移管後、道外からの募集を積極的に行っているかと思えます。道としても、平取高校で道外募集を行うなどの報道を拝見しましたが、これまで道内においては、産業系以外では広く募集するということが例外的な印象をもっておりました。</p> <p>平取高校において道外からの生徒募集が行われた経過等について伺うとともに、私としては、市町村立高校の動きから道立高校が学ぶべき点があるのではないかと考えておりましたが、道としての認識を伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>新学科の部分のところで、私が一番危惧するところが、単なるメニューの多様化や流行といったもので、学校内部の視点で設置していくことのないようにしていただきたいと思えます。</p> <p>なぜ、あえて平取高校で新学科や道外募集をすることの経過を質問したかという、私としては、コミュニティ・スクールや地学協働といった実践の上で、新しい学科をこの地域でやろうということを、地域で納得して、始まる学科が本物になると考えており、そうした新学科の増設を期待していることを申し上げます。</p> <p>(九) 高校づくりのあり方について</p> <p>最後に、高校づくりのあり方についてですが、先ほど冒頭にも申し上げましたように、結局今のところ高校配置計画にしても、中卒者の状況を踏まえた上で、そこの中の数の色々なやりくりの話は色々議論されますけども、抜本的に地域資源を活用して若い人材やいわゆるその地域の企業人ともしっかり連携をしていけるような高校づくりの視点が必要ではないかと考えますが、道教委としての考え方を伺います。</p> <p>(指摘)</p> <p>長年の見直しを経て、道としても道外からの若い人たちも積極的に募集をしていくというふうに踏み込んだというふうには私は認識をしておりますが、それであるならば、高校配置計画の最初の書きぶりにもしっかりそれを基調だとか理念のところにもしっかり入れていただきたいということを御検討を指摘をいたしまして私の質問を終わります。</p>	<p>の中で、高校生レストランの運営を行っております。</p> <p>奥尻高校では、「スクーバダイビング」の授業を通じた自然環境の保護等に取り組むなどしており、これらの学校では、毎年度、全国からの入学者を確保しているものと承知をしております。</p> <p>(学力向上推進課長)</p> <p>道外からの入学者の受入れについてであります。道教委では、平成21年度から道立高校のうち、農業・水産の学科において本道の基幹産業である農業や水産業を支える多様な担い手を育成する観点から、道外からの入学者の受入れを開始しております。</p> <p>また、平成27年度から、普通科も対象とすることとし、平成31年度以降は、離島に所在する高校や、地域連携特例校のうち、地域の教育資源を活用した教科・科目等を10単位以上履修できる学校・学科においても、受入れができるようにするなど、段階的に条件の見直しを図ってまいりました。</p> <p>令和5年度からは、高校を核とした地域創生の取組を進めるため、さらに条件の見直しを行い、2学級以下の学校のうち、地域ならではの教科・科目等を3単位以上履修できるなどの条件を満たす学校・学科についても対象とし、令和6年度には、普通科12校を含む33校の道立高校で道外からの入学者の受入れを実施することとなっております。</p> <p>平取高校においても、アイヌの文化を総合的に学び、多様性と共生・協働について考える学校設定科目「アイヌ文化」等を履修できる教育課程の特色を生かし、令和6年度から、道外からの入学者の受入れを開始することとしました。</p> <p>道教委としましては、道外からの入学者の受入れを通じて、道外で育った子どもたちが北海道の魅力を深く知り、将来的に本道での多様かつ継続的な関わりをもつことにより、本道の将来を支える人材の育成が期待できるものと考えております。</p> <p>(指導担当局長)</p> <p>高校づくりの在り方についてであります。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念の下、地域と連携・協働し、魅力ある高校づくりを推進することがこれまで以上に強く求められているものと認識しております。</p> <p>このため道教委では、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに対応できる高校づくりの観点から、普通科新学科や、単位制の導入を図ることとしています。</p> <p>道教委としては、地域の実情に応じた多様なタイプの高校づくりなどを進め、生徒から選ばれる魅力ある高校づくりを推進してまいります。</p>	<p>学力向上推進課</p> <p>高校教育課</p>